

# 洪水に備え 標高表示ステッカーを設置

西仁連川の堤防が決壊した場合に備え、市民の皆さんがいち早く安全な場所に避難できるよう、8月25日に砂崎、刈浜行政区までの西仁連川沿いの電柱に、標高を表示したステッカー170枚を設置しました。

今年3月に利根川沿いなどで実施したものに引き続き行われ、地元区長さんや消防団、子供会、交通安全協会、交通安全母の会の皆さん250人が参加しました。

標高表示ステッカーは過去の被害や現在の地形を考慮して標高と危険度を表示しています。8m〜12mが危険区域Ⅱ赤色、13mが注意区域Ⅱ黄色、14m以上が避難受入区域Ⅱ青色です。

赤色のステッカーが設置してある地域のかたは、災害が発生した場合の避難所や避難

経路を確認し、家族で話し合っておくことが大切です。



▲ステッカー設置作業の様子

## 飯沼の歴史は「水との戦い」の歴史です

飯沼は、今から290年ほど前の江戸時代中期から新田開発が始まりました。

明治になり、河床上昇などによる洪水被害や、昭和10年から25年にかけての記録的な

豪雨による大きな洪水被害が何度もありました。

その後、河川の改修や排水機場、水門の設置工事などにより、昭和36年の洪水を最後に大規模な洪水は起きていません。しかし、近年では台風の大規模化や多発するゲリラ豪雨などによる洪水への備えが大変重要になっています。



▲昭和13年に発生した洪水

## 利根川堤防決壊を想定した住民説明会開催

8月22日から9月6日に、利根川堤防周辺の地区を対象に、利根川の堤防決壊を想定した洪水のシミュレーション

映像を使った説明会が開催されました。



▲住民説明会の様子

このシミュレーション映像は、国土交通省の依頼により群馬大学の片田敏孝教授が中心となり作成したもので、堤防が決壊するとわずかな時間で、周辺の集落に水が押し寄せることが分かります。市から避難に関する広報があった際は、近所のかたがたに声をかけ合い、協力しあつて早目に避難することなどが話し合われました。

## 交通死亡事故連続ゼロ300日達成

8月23日、坂東市は交通死亡事故連続ゼロ300日を達成し、茨城県交通対策協議会から表彰されました。

今回の表彰は、交通安全協会や、交通安全母の会をはじめ、関係機関の皆さんの毎日の活動の成果により達成することができました。また、9月21日から30日まで秋の全国交通安全運動が展開されます。今後、一日でも長く交通死亡事故ゼロ

口が続くよう積極的な活動を推進していきます。



▲夏の交通事故防止県民運動の様子